

樹苗農協がコンテナ苗木等生産技術向上研修を開催

令和4年7月15日(金)、萩市において、山口県樹苗生産農業協同組合(笠本俊也組合長)主催による「コンテナ苗木等生産技術向上研修」が開催されました。

この研修は、コンテナ苗(※1)の生産技術向上を目的にしており、当日は、苗木生産者や造林者である阿武萩森林組合の職員など17名が参加しました。

午前は、これからの台風シーズンを控え、強風により傷ついた苗木が菌による病害に侵されること等がないよう、県職員(農林総合技術センター)を講師に迎え、効果的な病害防除方法等について学びました。

参加者からは、病害の見分け方や未然防止に向けた対策、罹患した際の対応方法など、多くの質問がありました。

また、講義の終了後は、萩市明木でコンテナ苗を生産する平田貴紀氏が所有する苗木生産施設の視察を行い、会員相互の技術力の向上に向け、活発な意見交換が行われました。

午後からは、成長や形質等に優れ、造林コストの低減等が期待される「早生樹(※2)」や「エリートツリー(※3)」等、新たな品種の活用に向け、県が試験地を設定する萩市川上に場所を移し、これら品種の特性や成長状況等を確認しました。

県職員から、植栽後3年目で従来のスギよりエリートツリーの方が1m以上も樹高成長が上回っている等の説明がされると、参加者からは、「早く生産してみたい」、「エリートツリーの種子はいつから手に入るのか」など、新しい品種に対する期待の声が聞かれ、今後の導入に向けて理解を深めることができたよう感じました。

県では、エリートツリーなど、成長の早い新たな樹苗の低コストかつ安定的な供給体制の構築を進めており、今回の研修がその一助となることを期待します。



苗木生産施設の視察



早生樹・エリートツリーの視察

※1 コンテナ苗とは

- ・ 「マルチ(多)キャビティ(孔)コンテナ(容器)」と呼ばれる特殊な栽培容器で育成した根鉢付きの苗で、活着率が高く、年間を通じて植栽可能
- ・ 根鉢が均一で小径であるため、大きな植穴が不用で、専用器具等を使用することで植え付け作業の能率が向上
- ・ 生産者にとっても、小面積で多くの苗木を生産でき、専用培地を用いるため、土づくりや土壌消毒が不用で、立ち姿での作業が主体なため、労働負荷が軽減されるなどのメリット

※2 早生樹とは

- ・ 「早く」「成長する」「樹種」の総称
- ・ 10年から30年位の比較的短伐期での収穫が可能で、本県では、センダン(在来種)やコウヨウザン(中国産)が植栽されている

※3 エリートツリーとは

- ・ 形質や成長に優れた樹木を交配・育成した集団の中から特に優れたものとして選ばれた樹木
- ・ 本県では、エリートツリーの中でも更に厳しい基準をクリアし、農林水産大臣の指定を受けた品種を、県営林木育種園(萩市)において、スギ・ヒノキの種子採取用母樹として使用